4. 化学物質等の食経験に関する情報

項目				資料番号
国内での食経験	☐ 有		☑ 無	
（有の場合）				
流通形態（該当にチェックを入れる		喫食実績	喫食量	
☐ 調味料 ☐ 食品添加物 ☐ その他（ ）		年以上	トン／年	
☐ 調味料 ☐ 食品添加物 ☐ その他（ ）		年以上	トン／年	
☐ 調味料 ☐ 食品添加物 ☐ そ		年以上	トン／年	
海外での食経験	☑ 有		☐ 無	
（有の場合）				
国・地域	流通形態（該当にチェックを入れること）	喫食実績	喫食量	資料番号
アメリカ	☐ 調味料 ☐ 食品添加物 ☑ サプリメント ☐ その他（ ）	50 年以上	不明（700 million USD相当）	資料4-1, 4-2
	☐ 調味料 ☐ 食品添加物 ☐サプリメント ☐ その他（ ）	年以上	トン／年	
	☐ 調味料 ☐ 食品添加物 ☐サプリメント ☐ その他（ ）	年以上	トン／年	
今後想定される商品形態	☑ 有		☐ 無	
（有の場合） 錠剤、カプセル剤				

国内で化学物質等の食経験がある場合は、流通実態について下記項目に記載すること。

海外で化学物質等の食経験がある場合は、流通実態について下記項目に記載すること。

今後想定される商品形態がある場合は、記載すること。
例）サプリメント

食経験と有害事象についての知見	資料番号
（アグリコン（非糖部）の情報がなくとも、配糖体としての食経験がある場合は追記すること） <事例1>35歳男性 (イタリア) が時差ぼけ防止のためメラトニン3 mgを含むサプリメントを摂取したところ、亀頭に紅斑小水疱性斑が出現し来院。メラトニン1 mg摂取試験を行ったところ、再度、斑が出現したため、メラトニンが原因の発疹と診断された (Acta Derm Venereol, 78: 69-70, 1998)。	資料1-1、4-3
<事例2>日本国内においてメラトニンの大量摂取による自殺企図が発生したが、胃洗浄等の処置により死亡例は認められていない（中毒研究 11: 291, 1998）。	資料4-4